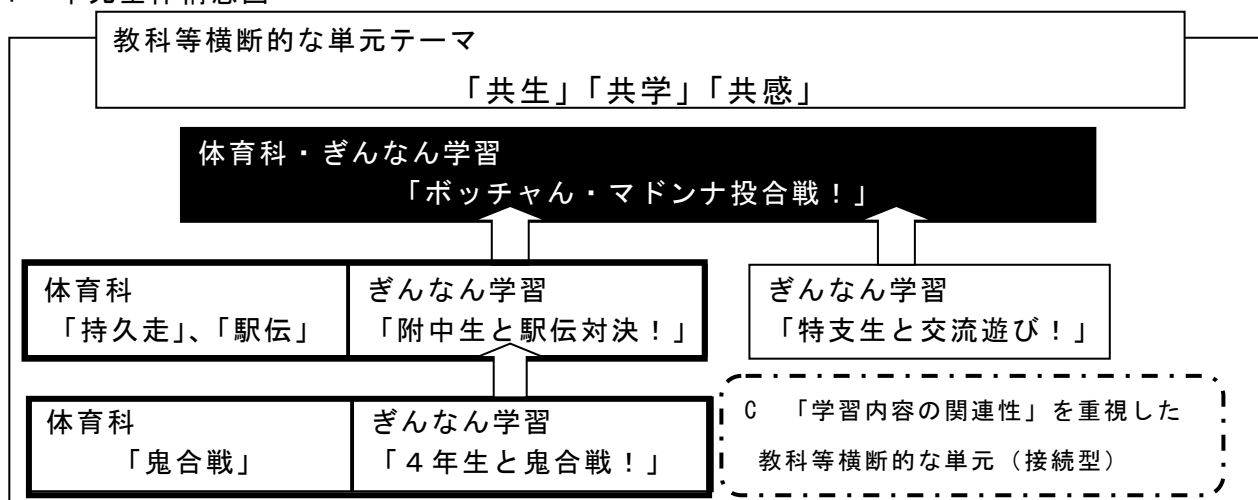


第2学年花組 体育科（+ぎんなん学習）

「ボッチャン・マドンナ投合戦！-ターゲット型ゲーム-」 指導者 濱田 圭

1 単元全体構想図



2 単元構想について

生涯スポーツの観点において、これからの社会では、年齢差や性差、障がいの有無、運動能力の高低に関係なく誰もが一緒になって運動に親しみ、参画することが目指されている。共生社会が提唱される中、学校体育においてもインクルーシブな視点を授業に盛り込むことが大事であると考えます。そうすることによって、誰でも一緒にスポーツの楽しみや喜びを味わうことができ、ひいてはそれが、子どもの健康で豊かなスポーツライフを実現する力につながると言える。そういったことに鑑み、本単元では、異学年、異校種とのかかわりを柱において大単元を展開していく。体育科とぎんなん学習を関連させることで、学びの空間を広げ、異学年、異校種とのかかわりながら運動をすることによって、共生社会に生きる子どもの胸に深く刻まれる学びにつなげていきたい。

「めざせ！さくらもち！」は2年花組の学級目標。「米粒は一粒一粒がおいしい。そのおいしい一粒一粒ががっちりとかっつき合っているから、さくらもちはさらにおいしい。そんなクラスになりたい。」という、子どもの思いからできた合言葉でもある。この合言葉の下、これまでに、子どもは、運動会の全員リレー、持久走や駅伝、なわとびなどに一生懸命取り組んできた。なかなかうまくいかない経験と頑張った分だけ報われる経験とを繰り返しながら、仲間と一緒に頑張ることのすばらしさ、力を出し切ることの心地よさ、できたときの達成感などを感じてきている。

二学期には4年生との鬼合戦対決や附属中学校（以下、附中）との駅伝対決などを企画し、自分たちで運営したり、附属特別支援学校（以下、特支）から遊びランドやボッチャの授業に招待されて交流をしたりしてきた。そんな経験を積み重ねてきた子どもだからこそ、本単元の活動を通して、より一層いろいろな人と運動することのすばらしさや面白さを感じてほしいと願っている。

本単元で扱うボッチャは、パラリンピックスポーツの一つで、的となるジャックボールにどれだけ自チームのボールを多く近付けられるかを競うゲームである。求められる技能は、的に

向かってボールを投げたり転がしたりすることであり大変シンプルである。初めは的までの距離感や力加減が掴めず、難しさを感じるであろうが、繰り返し練習を重ねることで、ボールを指先から離すタイミング、手首のスナップを利かせた投げ方等、ボッチャ以外の投運動にもつながる感覚を身に付けることができる。また、求められる技能がシンプルなので、全員の子どもが「できた!」「うまくいった!」を味わうことができることも魅力である。さらには、自チームと相手チームが交互に投げ合いながら得点を競うスポーツであるため、目の前の状況に応じた投球や数手先まで予測した投球とを使い分ける必要がある。そういったことは中学年以降のボールゲームにおける戦術学習に生きて働く力となる。また、1人で投げ進めていくのではなく、チームで投げる人を交代しながら進めていくので、チーム内での話合いも活発に行われ、対話を中心に活動が進められていくであろう。

3 単元のねらい

- 進んでゲームに取り組むとともに、仲間の頑張りや考えを認め、安全に気を付ける。
- 自分たちで規則を追加したり、仲間と話し合っただけ状況に応じて攻め方を工夫したりする。
- ゲームの行い方を知るとともに、ねらったところにボールを投げたり、転がしたりする。

4 単元の展開（全6時間）

場面	子どもの課題意識と主な学習活動	評価の規準	時間
出合い	<p>ボッチャってどんな運動だろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 特支との練習試合を通して、自分の課題を見付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 規則やゲームの行い方等を理解するとともに、課題を見付けている。 	1
挑戦	<p>練習をして、上手になろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ボッチャの玉をねらったところに投げたり、転がしたりする。 ○ 相手と試合をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ● ねらったところに玉を投げたり、転がしたりすることができる。 ● 対話しながら運動したり、攻め方を考えたりすることができる。 	4
感動	<p>特支生、附中生とボッチャで対決しよう!</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 活動してきたことを生かして、いろいろな人と運動する活動を企画し、運営する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 対決に向けて遊び方を更に工夫するなどし、進んで活動に取り組んでいる。 	1 本時

5 単元における指導の工夫

場面	三つの場面ごとの子どもと「つなぐ」指導の工夫（学習材・他者・自分自身）
出合い	<ul style="list-style-type: none"> ・ ボッチャがこれまで経験した異学年交流と違い、ハンデなしで対決できるスポーツであることが分かる。（学）
挑戦	<ul style="list-style-type: none"> ・ チームで簡単な攻め方を考えるように場面を設定することで、仲間と考えを出し合い、共に運動することのよさを感じることができるようにする。（他）
感動	<ul style="list-style-type: none"> ・ ぎんなん学習と関連を持たせて学習空間を広げ、子ども自身が大会を運営できるようにすることで、心に深く残る学びとしたい。（自）

6 評価の具体的な方法

(1) 「出会い」「挑戦」「感動」の学習過程における指導と評価

	「学習材」「他者」「自分自身」をつなぐ方針	主に評価する三つの資質・能力
出 合 い	○ 特支が取り組んでいる様子を見学させてもらうことで、「自分たちもやってみたい」と意欲を高める。(学)	<ul style="list-style-type: none"> 教材と出合うことで、「できるようになりたい」「友達と一緒に頑張りたい」という思いや願いを強くし、自分なりのゴールイメージを持って前向きに取り組んでいる。(主体的に学習に取り組む態度)
挑 戦	○ ボールをねらった所に投げる力を身に付けることができるように、練習方法を自分たちで選び、活動できるようにする。(学) ○ チーム内で相談しながら投球し、ジャックボールに近付けることで、仲間と一緒に活動することの楽しさを感じることができるようにする。(他)	<ul style="list-style-type: none"> 運動を「する」楽しさを十分に味わうことができている。(主体的に学習に取り組む態度) ねらった所に投げたり、転がしたりする力を身に付けることで、「できるようになってきた」という充実感を得ている。(知識・技能) 友達との励まし合いやアドバイスをし合ったり、チームで相談したりする。(思考・判断・表現)
感 動	○ これまでの活動を振り返ることで、できるようになった自分の成長を自覚できるようにし、ぎんなん学習と関連を持たせることで子どもの思いや願いを叶えられるようにする。(自)	<ul style="list-style-type: none"> 特支や附中との対決に向けて自分たちで企画・運営をしている。(主体的に学習に取り組む態度)、(思考・判断・表現)(知識・技能) 「みる」「支える」の視点からも運動とかかわる楽しさを感じることができている。(主体的に学習に取り組む態度)

(2) 子どもの自己評価

子どもの自己評価として以下の質問をする。これを毎時間積み重ねていくことで、子どもの自己評価を蓄積し、個別指導に生かしたい。また、数値が変化した理由を教師自身が考えることによって授業改善にも生かすことができ、子どもの思いや願いをよりくみ取った授業を目指すことができる。

評価方法：それぞれの質問に対して「はい・どちらでもない・いいえ」で自己評価する。(毎時間)

1 楽しかったですか。
2 今までできなかったこと(運動や作戦)ができるようになりましたか。
3 自分のめあてに向かって何度も練習できましたか。
4 友達と協力して、なかよく学習できましたか。
5 友達とお互いに教えたり、助けたりしましたか。

また、単元を通して体育ノートに毎時間の振り返り等を書かせる。そこには授業で学んだことの他に、①自分の成長、②友達とのかかわり、③自分なりの目標と解決策等を書かせる。その記述から、子どもが自身をどのように評価しているのか、友達のことをどのように思っているのか等を教師が把握しておくことで、子どもの思いをより深くくみ取り、次の授業での指導に生かし、子どもの力を更に伸ばすことができる。

7 本時の授業（6／6）

- (1) 日時 令和2年1月31日（金）11:30～12:15
- (2) 場所 附属中学校体育館
- (3) ねらい 運動を楽しみ、練習してきたことを交流大会で生かす。
- (4) 準備物 ビブス、体育ノート、ボッチャ用具5セット分等
- (5) 展開

学習活動	予想される子どもの意識の流れ	指導（○）と評価（●）
<p>1 開会式をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入場行進 ・選手宣誓 ・体操 	<p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">交流大会をみんなで盛り上げよう。</p> <p>（</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特支生と附中生に勝つぞ。 ・最後の締めくくりを、みんなで頑張ろう。 ・正々堂々フェアプレイでやろう。 <p>）</p>	<p>○ 子どもに企画・運営させることで、「自分たちの大会を成功させたい」という意欲を高める。</p>
<p>2 チーム毎に練習する。</p>	<p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">対決に向けてしっかり練習しよう。</p> <p>（</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指先まで集中して、最後まで丁寧に投げるよ。 ・特支のお兄ちゃんお姉ちゃんたちは、膝でリズムをとって投げていたよ。 ・ねらった所に投げるよ。 <p>）</p>	<p>○ 個人の課題に合った練習ができるように、いくつかある練習方法の中から選ぶことができるようにする。</p>
<p>3 ボッチャのゲームをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・競技（する） ・応援（みる） ・審判等（支える） 	<p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">練習したことを生かして対決を楽しもう。</p> <p>（</p> <ul style="list-style-type: none"> ・練習したことを生かして頑張るよ。 ・敵、味方関係なく、頑張っている人みんなをしっかり応援するよ。 ・特支のお兄ちゃんお姉ちゃんたちがやっていたように、みんなで協力して大会を盛り上げるよ。 ・来た人みんなに楽しんでもらおう。 <p>）</p>	<p>○ 運動を多様に楽しむことができるように、「する・みる・支える」の役割を分担し、子どもたち自身で大会を運営できるようにする。</p> <p>○ 練習したことを想起できるように、声を掛ける。</p>
<p>4 活動を振り返る。</p>	<p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">今日の活動を振り返ろう。</p> <p>（</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハンデがなくても、みんなで本気で対決できて楽しかったよ。 ・自分たちで大会を運営できたし、みんな楽しんでくれたから大満足。 ・これからもいろいろな人たちと交流したいな。 <p>）</p>	<p>○ 自分の活動を振り返る場と発表し合う場を設けることで、自他を認め、次の活動へ意欲をつなげる。</p> <p>● 他者と運動遊びをすることの楽しさを実感し、進んで運動に取り組むことができたか。[様態・体育ノート]</p>